

上武国道建設促進についての 要 望 書

令和8年10月21日
上武国道建設期成同盟会

上武国道建設促進についての要望

一般国道１７号は、埼玉県・群馬県を南北に貫き、首都圏と日本海側を結ぶ広域的な「都市間連絡道路」であり、両県の産業・経済の活性化や人流・物流を支える極めて重要な大動脈であります。

しかしながら、本路線は通過する各都市部で慢性的な交通渋滞が発生していることに加え、未事業化区間や暫定２車線区間といった「ミッシングリンク」が残されていることから、広域道路ネットワークとしての機能が十分に発揮されていない状況にあります。

今日、激甚化・頻発化する自然災害から国民の生命と財産を守り抜く「命の道」としての役割は一層重要性を増しており、国の新たな「首都圏広域地方計画」においても、道路ネットワークの「代替性・多重性の確保」やインフラの機能強化が主要施策として掲げられています。これらの観点からも、ミッシングリンクの解消と本路線の機能強化はまさに急務であります。

これらに対処するため計画・整備が進められている通称「上武国道」（埼玉県内の新大宮上尾道路、上尾道路、熊谷バイパス、深谷バイパス、埼玉・群馬両県を結ぶ上武道路、及び前橋渋川バイパスを經由し、群馬県渋川市で一般国道１７号に接続する一連の道路）は、広域交通の円滑化と地域発展を支える不可欠な基幹インフラであります。これまで関係機関の多大なご尽力により着実な整備が進められてきたことに対し、埼玉・群馬両県民ならびに沿線住民を代表し、深く感謝申し上げます。

現在、道路ネットワークの形成に伴い沿線への工業団地や物流施設の立地が大きく進んでおり、地域経済のさらなる活性化と、災害時にも機能する強靱な広域ネットワークの構築に向けては、未供用区間および暫定２車線区間の早期解消が必要不可欠であります。

つきましては、本路線の重要性を御賢察の上、次の事項について特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

○新大宮上尾道路

- ・ 事業中区間の首都高速道路与野ジャンクション（仮称）から上尾南出入口（仮称）までの区間について、早期完成に向け事業を強力に推進すること。また、上尾南出入口（仮称）から圏央道区間について早期に事業化すること。

○上尾道路

- ・ II期区間（圏央道桶川北本インターチェンジから鴻巣市箕田）について、一層の事業推進を図ること。
- ・ I期区間（さいたま市西区宮前町から圏央道桶川北本インターチェンジ）については、全線4車線化供用に向け、更なる事業推進を図ること。

○熊谷バイパス

- ・ 本線部（熊谷渋川連絡道路）について、上武道路及び深谷バイパスの4車線化に合わせ、新規事業化に向けて計画の具体化を図ること。

○深谷バイパス

- ・ 暫定2車線区間について、新規事業化し早期に4車線化を図ること。

○西別府東方局所渋滞対策

- ・ 今年度新規事業化した西別府～東方局所渋滞対策事業の整備促進を図ること。

○上武道路

- ・ 県境に跨がる新上武大橋を含む区間（熊谷市西別府から太田市武蔵島町）の暫定2車線区間について、早期に4車線化を図ること。

○前橋渋川バイパス

- ・ 前橋市田口町から吉岡町を経て渋川市半田に至る暫定2車線区間について、新規事業化し早期に4車線化を図ること。

○資材価格の高騰、近年の建設業における人件費の上昇等の影響を十分に踏まえ、計画的かつ長期安定的な道路整備が着実に進められるよう、令和9年度道路関係予算については、所要額を満額確保すること。

○第1次国土強靱化実施中期計画を踏まえた関係予算については、危機管理投資による強い経済の実現の観点も踏まえ、通常道路予算とは別枠で、必要な予算を満額確保すること。

令和8年10月21日

上武国道建設期成同盟会

会 長 埼玉県知事 大野 元裕

上武国道建設期成同盟会 会員

埼玉県知事 大野 元裕

群馬県知事 山本 一太

さいたま市長 清水 勇人

前 橋 市 長 小 川 晶

熊谷市長 小林 哲也

伊勢崎市長 臂 泰雄

行 田 市 長 行 田 邦 子

太 田 市 長 穂 積 昌 信

鴻 巢 市 長 並 木 正 年

澁川市長 星名 建市

深谷市長 小島 進

吉岡町長 柴崎 徳一郎

上尾市長 畠山 稔

桶川市長 小野 克典

北本市長 三宮 幸雄

